

〔長談〕  
学対

# 産業・行政・大学の連携で 地方から国を興す

衆議院議員

富岡 勉

TOMIOKA Tsutomu

×

長崎大学長

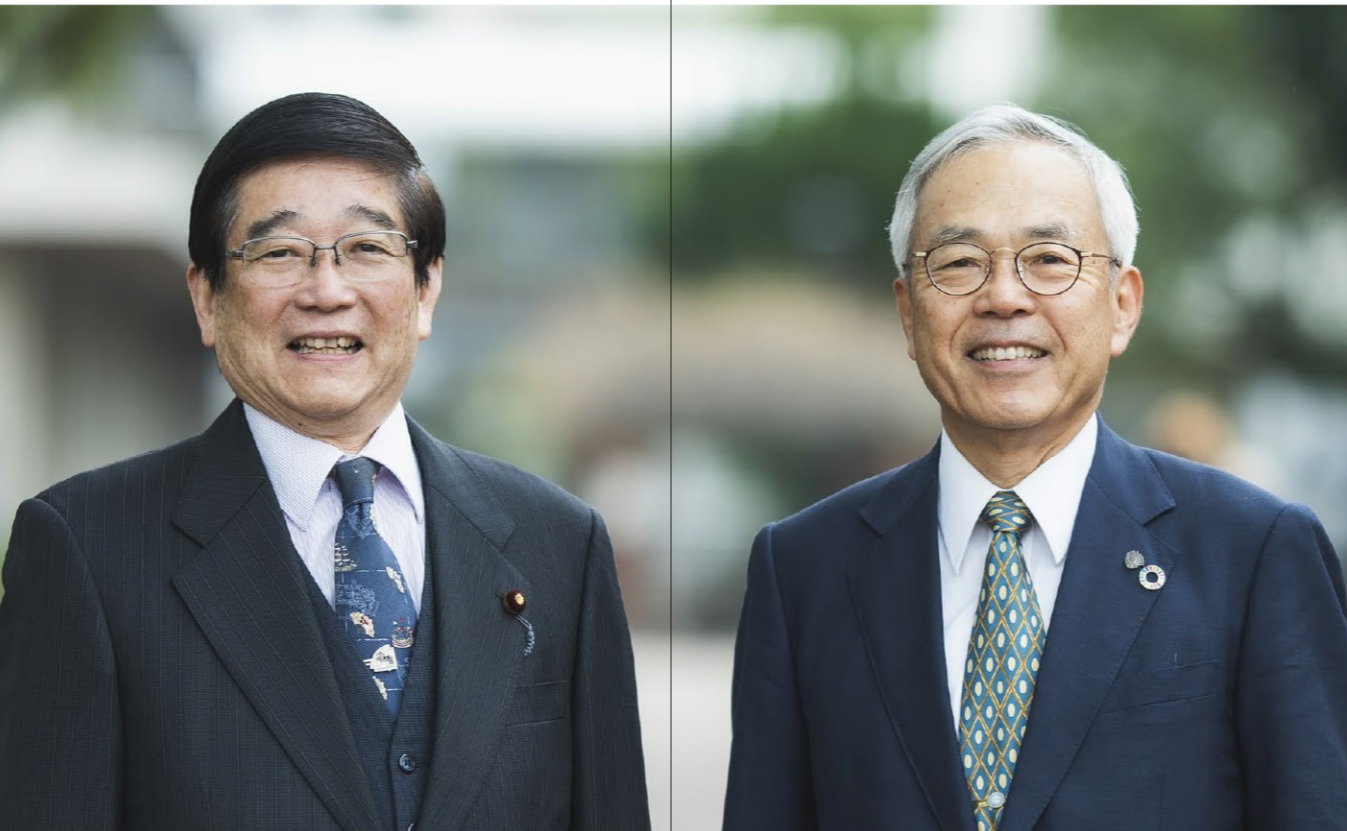
河野 茂

KOHNO Shigena

学長対談の第二弾として、富岡勉  
衆議院議員をお迎えしました。司会  
進行は山口純哉編集長です。

実は同期だった二人  
お互い刺激し合う仲

山口編集長（以下、山口） 富岡議員  
はベトナム視察から帰国した足でお  
越しいただき、ありがとうございます。  
今回はお二人に、現在の役職を  
目指した時の志、国や長崎の将来へ



とみおか つとむ  
1948年生まれ。1976年長崎大学医学部卒業。長崎大学医学部第2外科助教授、  
同医療技術短期大学部教授を経て、1999年自由民主党より立候補し当選、長崎  
県議会議員となる。2005年衆議院議員選挙初当選。以来現在4期目。文部科学副  
大臣兼内閣府副大臣を経て、2019年より自由民主党政務調査会副会長。

こうの しげる  
1950年生まれ。1974年長崎大学医学部卒業。長崎大学助手、  
ニューメキシコ州立大学医学部研究講師を経て、1996年長崎大  
学医学部教授となる。2009年同大学理事、大学病院長を歴任後、  
2014年理事・副学長に就任。2017年より現職。

の取り組みなどを伺います。まず、  
長崎大学医学部をご卒業後、医師と  
なり国会議員として活躍の富岡先  
生に、医師を志した理由からお聞か  
せください。  
富岡議員（以下、富岡） わりあい単  
純なのですが、父親が内科医で兄二  
人も医師になっており、末っ子の私  
は他の職業を思い付かなかったの  
です。しかし、学生運動で大学が混乱  
していたこともあって浪人した頃は、  
「他の職業になるか」と迷った時期  
もありました。長崎大学の医学部に

の道を邁進していく人です。

山口 そうだったんですね。一方、  
学長はどうして医師の道へ？

学長 私は祖父が東彼杵郡波佐見  
町で開業医をしていましたが、誰  
も跡を継がなかったので、私が医  
師になって病院の再興をと考えて  
いました。富岡先生と病理学を学  
んでいた時は、英語が大好きで毎  
年夏休みには二週間休んで海外に  
行っていたので、教授からは嫌わ  
れていました（笑）。私のせいで後輩  
たちは夏休みが一週間になり、みん  
なから恨まれました。

富岡 私はすっかり河野先生の影響  
を受けましたね。「そうか、論文を  
早く仕上げ海外に行くべきなん  
だ！」と。

学長 留学先も自分で探して二年間  
アメリカに留学しました。帰国して  
開業医になろうとしていた時、大学  
に戻れと声が掛かりました。当時の  
大学は厳しい徒弟制度で朝から晩ま  
で診療で、学会の準備などもあって  
本当に大忙し。しかし、教育システ  
ムはしっかりしていました。先輩た  
ちから「大学に戻ってこい。やって  
みてダメならすぐ外に出すから」と

たのでしよう。

富岡 当時、土山秀夫先生が病理学  
におられ、学長になられました。田  
中健蔵先生も九州大学総長を務め、  
その後県知事選に出られた。先輩方  
を見ていて、自分もいずれ選挙に挑  
戦しようと思っていました。

社会活動を通して世の中を見ている  
と、医療も経済も結局は政治が鍵を  
握ります。結婚した当初、妻に「い  
ずれ政治の世界に入る」と語り、彼  
女は「何を言っているんだ、この人  
は」と（笑）。その後、長崎大学医療  
技術短期大学部看護学科（現・長崎

入学してからは面白さを感じ、外  
科医を目指しました。卒業して病  
理学を学ぶ中で河野茂学長と同期  
となり、それ以来のつきあいです。  
学長は当時からアクティビティが活  
発で……（笑）。  
河野学長（以下、学長） 笑っちゃい  
かんよ（笑）。  
富岡 私にはない面をたくさん持っ  
ておられた。学生時代から頻繁に海  
外にも出ていて、私にとって貴重な  
出会いでした。

学長 富岡議員は外科を目指してい  
て、ガリ勉ではないけれど非常に熱  
心で人柄が良いので、先輩・後輩か  
ら慕われていましたね。

山口 医師となって活躍する中で、  
どうして政治の道に進もうと思われ

コーディネーター／本誌編集長

山口純哉



YAMAGUCHI Junya